

この3カ月で世界を取り巻く環境が大きく変わりました。国内でも学校の休校が続き、イベントや娯楽施設に加えて、多くの飲食店が営業を休止・縮小するなど経験のない生活が続いています。

毎日ニュースを見ていても、当たり前だと思っていた日常が当たり前ではなくなってきたことを実感します。そのような中、テクノロジの役割はこれまで以上に重要なものになっていると認識し、IT(情報技術)業界にいる自分の仕事や役割についても考えさせられています。

働き方も例外ではありません。現在、多くの企業が在宅勤務を行っていると思いますが、私もほぼ完全に在宅勤務になってから2カ月余りになります。これまでも最大週4日まで在宅勤

在宅勤務で気づいたこと

日本HP
コンシューマー事業本部 本部長

沼田 綾子氏



ぬまた・あやこ 2001年、コンパックコンピュータ(現日本HP)入社。Eコマースやマーケティングの部署を経て16年にコンシューマーPC製品部へ異動。17年5月から現職。

部の定例ミーティングではいつもより多く時間をとってお互いの近況を話しあうなどして、物理的に離れていても孤独感を感じないよう配慮しています。

海外のチームと会話をする際にも、お互いに本人や家族の健康をケアする言葉を掛け合うなど、この危機に連帯感を強めていくようなコミュニケーションが広がっているように感じます。

長期間の在宅勤務が続くなか、仕事の生産性やチームワークをどう悪化させないようにするかも大きな課題です。幸い、HPではペーパーレス化、情報の共有

務が社内規定で認められていましたが、実際には従来利用は周りのメンバーも含めて週に1回程度でした。今回、長期の在宅勤務を体験し気づいたことがいろいろありました。

まず、管理職としては、柔軟で迅速に対応するようになっています。

数週間顔を合わせない状況で心理的なつながり、安全安心な環境をどう持続させるかはとても重要だと考えています。毎週、四半期ごとに設定した目標設定につ

また、この状況になって初めて、職場での日々のたわいない雑談がどれだけ人間関係をスムーズにし、お互いが心地よく働くために大事かを痛感しています。

調べては、9割以上の社員が在宅勤務は十分機能している、またはどちらかという機能していると回答しています。ただ、議論しながらアイデアを創造するような会議の場合には、音声を中心とする電話会議は難しいところがあります。こういった打ち合わせも資料やツールを工夫しながら、どんどん試してみるようにしています。

一部の教育機関では、オンライン授業が開始されました。今後さらに、テクノロジーが人々の暮らしを支える場が増えてくるでしょう。自分はどうやって貢献できるかを考えながら、今とはかく意識的に規則正しいリズムで睡眠、食事、運動をするように気をつけています。

家族はもちろん、会社の仲間たちとも心身ともに健康な状態で日常が過ごせる日々が戻ってくることを願っています。